



イノベーションで先へ行く!走れ!未来へ
ON THE RUN!

エラストマーで新事業の領域へ。
そこは時代の少し先にあります。

●医療機器・ヘルスケア機器 ●電子資材 ●新ソリューション

2022年3月期 決算概要

2022年5月12日

バンドー化学株式会社

- I . 2022年3月期 決算概要
- II . 2023年3月期 業績予想

I . 2022年3月期 決算概要

2022年3月期 決算ハイライト



(単位：百万円、%)

		2021/3	2022/3			
		実績	実績	前期比	業績予想値	達成率 (対業績予想値)
売上収益		81,371	93,744	+12,373	90,000	104.2%
コア営業利益		4,938	5,880	+941	6,000	98.0%
コア営業利益率		6.1%	6.3%	+0.2%	6.7%	
営業利益		5,377	2,665	△2,711	6,500	41.0%
税引前当期利益		5,618	3,414	△2,204		
親会社の所有者に 帰属する当期利益		3,943	1,211	△2,732	4,500	26.9%
為替レート	USD	105.93	113.05		109.06	
	THB	3.41	3.45		3.40	
	人民元	15.65	17.65		16.94	

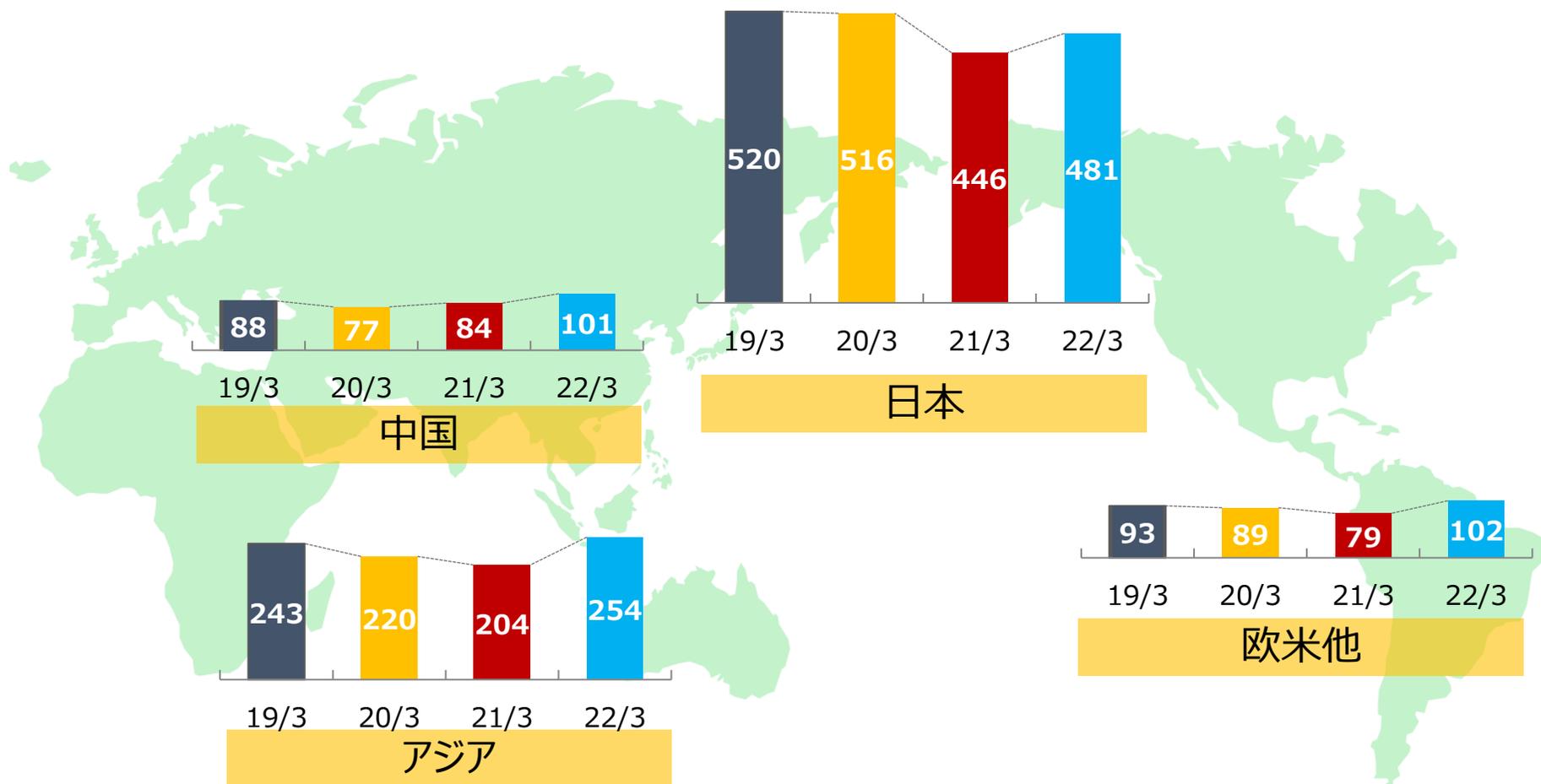
当第4四半期に計上した一時的な損失の業績影響

(単位：百万円)

	賞与制度の変更	のれんの減損損失	その他の減損損失 (米国等)	合計
コア営業利益	△1,349	-	-	△1,349
営業利益	△1,349	△4,022	△305	△5,676
税引前当期利益	△1,349	△4,022	△305	△5,676
親会社の所有者に 帰属する当期利益	△924	△4,022	△298	△5,245

2022年3月期 所在地別売上収益

(単位：億円)

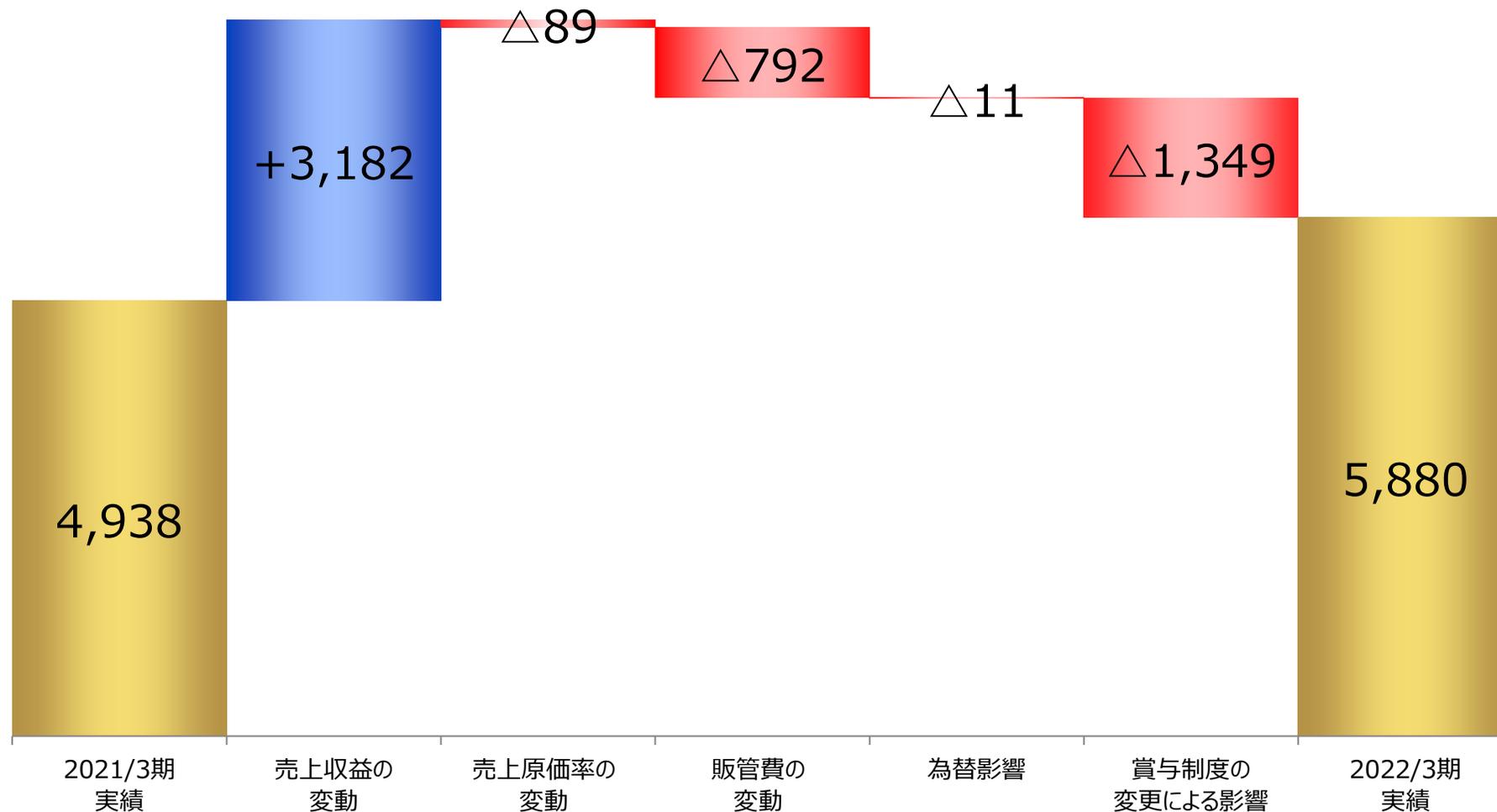


(注)所在地別売上収益はセグメント間取引消去後。

2022年3月期 連結コア営業利益 増減分析

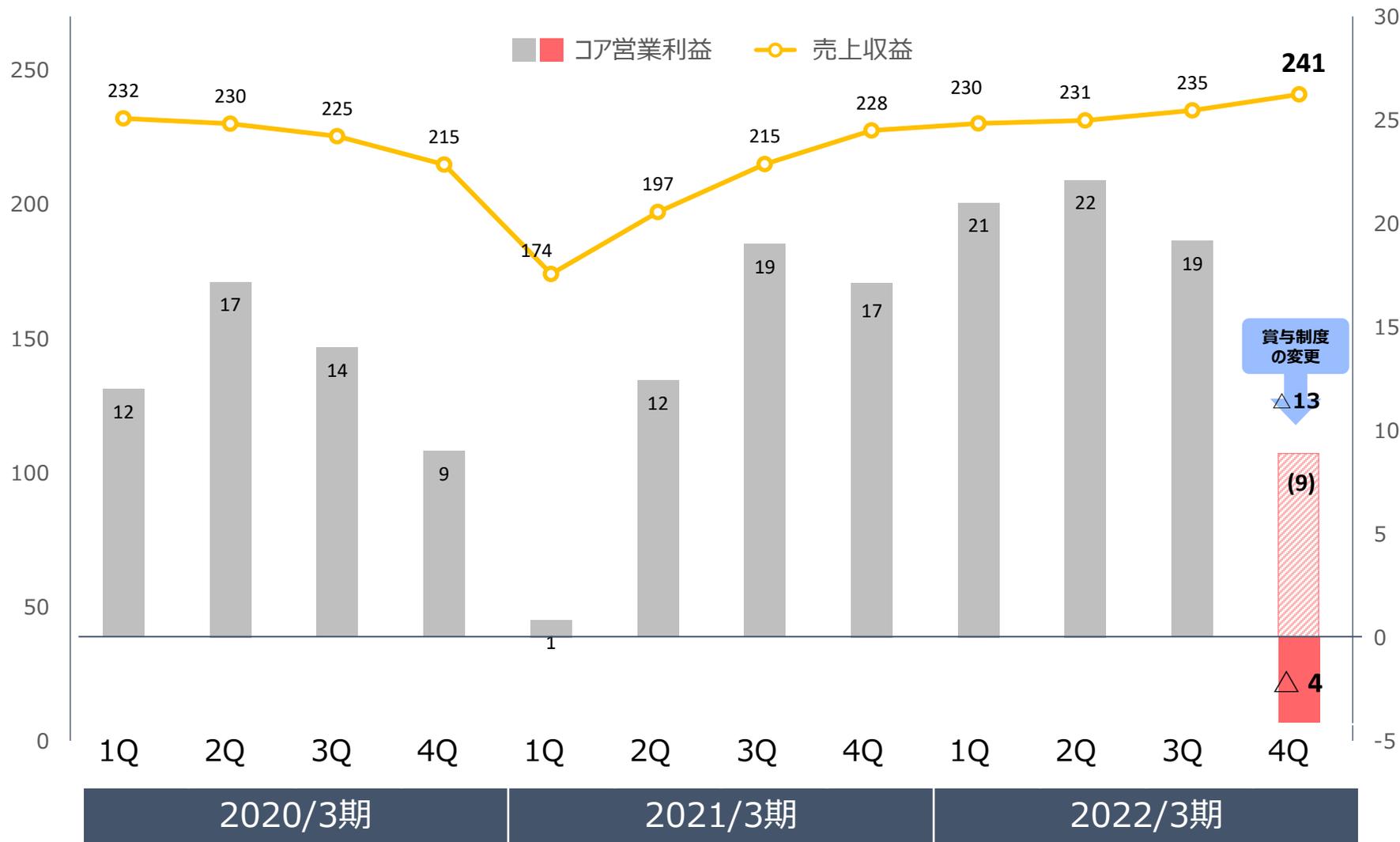


(単位：百万円)



四半期推移（売上収益/コア営業利益）

(単位：億円)



2022年3月期 セグメントの状況

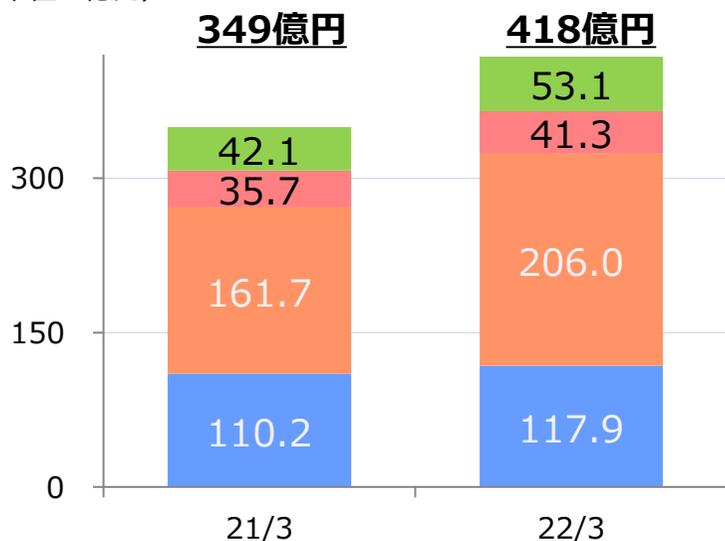


(単位：百万円)

	2021/3	2022/3		
	実績	実績	増減額	増減割合
売上収益	81,371	93,744	+12,373	+15.2%
自動車部品事業	34,975	41,829	+6,854	+19.6%
産業資材事業	30,232	33,301	+3,069	+10.2%
高機能エラストマー製品事業	11,883	13,998	+2,114	+17.8%
その他	5,368	5,554	+186	+3.5%
セグメント間消去	△1,087	△939	+148	—
コア営業利益	4,938	5,880	+941	+19.1%
自動車部品事業	2,386	2,741	+354	+14.9%
産業資材事業	2,238	2,688	+449	+20.1%
高機能エラストマー製品事業	△129	280	+409	—
その他	339	304	△34	△10.2%
セグメント間消去等	103	△134	△238	—

所在地別売上収益

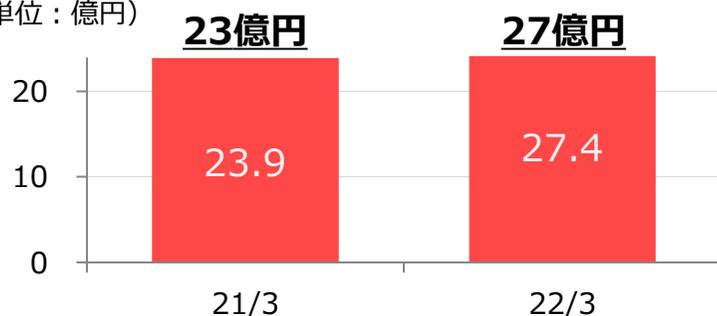
(単位：億円)



欧米他 (+26.0%)	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数の回復により、販売が増加。
中国 (+15.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 主要顧客の生産台数の増加や補修市場への拡販により補機駆動用伝動ベルトなどの販売が増加。
アジア (+27.4%)	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数の回復により、販売が増加。 二輪車用変速ベルトの販売も増加。
日本 (+7.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な営業活動により、補修市場向けの販売が増加。 主要顧客である自動車メーカー向け補機駆動用伝動ベルトおよび伝動システム製品の販売が増加。

コア営業利益

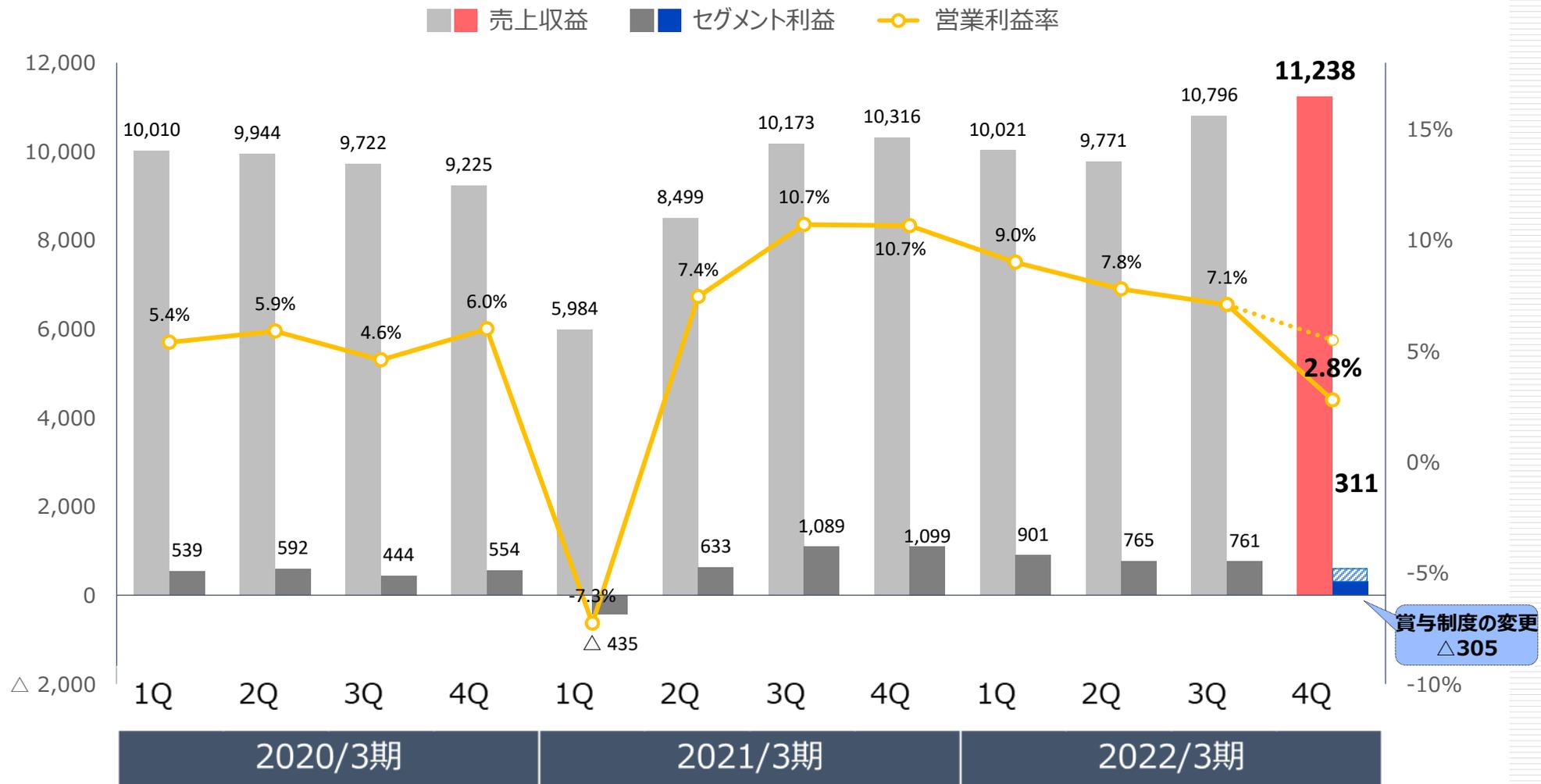
(単位：億円)



コア営業利益 (+14.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 販売の増加により、利益が増加。
--------------------	---

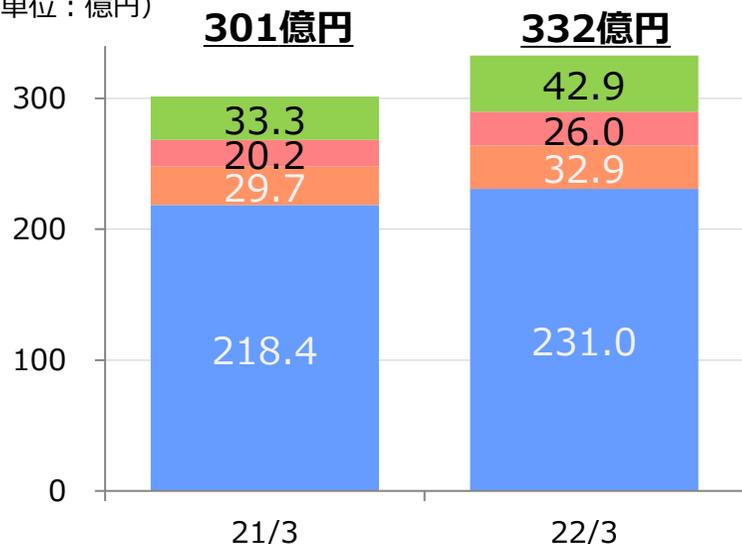
自動車部品事業 四半期推移

(単位：百万円)



所在地別売上収益

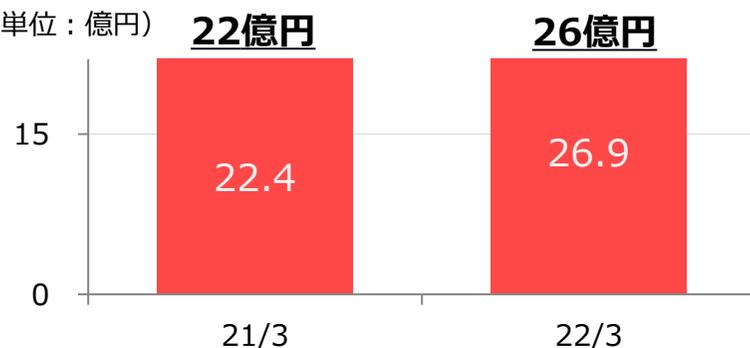
(単位：億円)



欧米他 (+29.1%)	■米国・トルコにおいて、産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
中国 (+28.8%)	■農業機械用および産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
アジア (+10.8%)	■農業機械用および産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
日本 (+5.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間設備投資需要の増加により、産業機械用伝動ベルトの販売が増加したことに加え、農業機械用ベルトの販売も増加。 ■ 樹脂コンベヤベルトの販売が増加。

コア営業利益

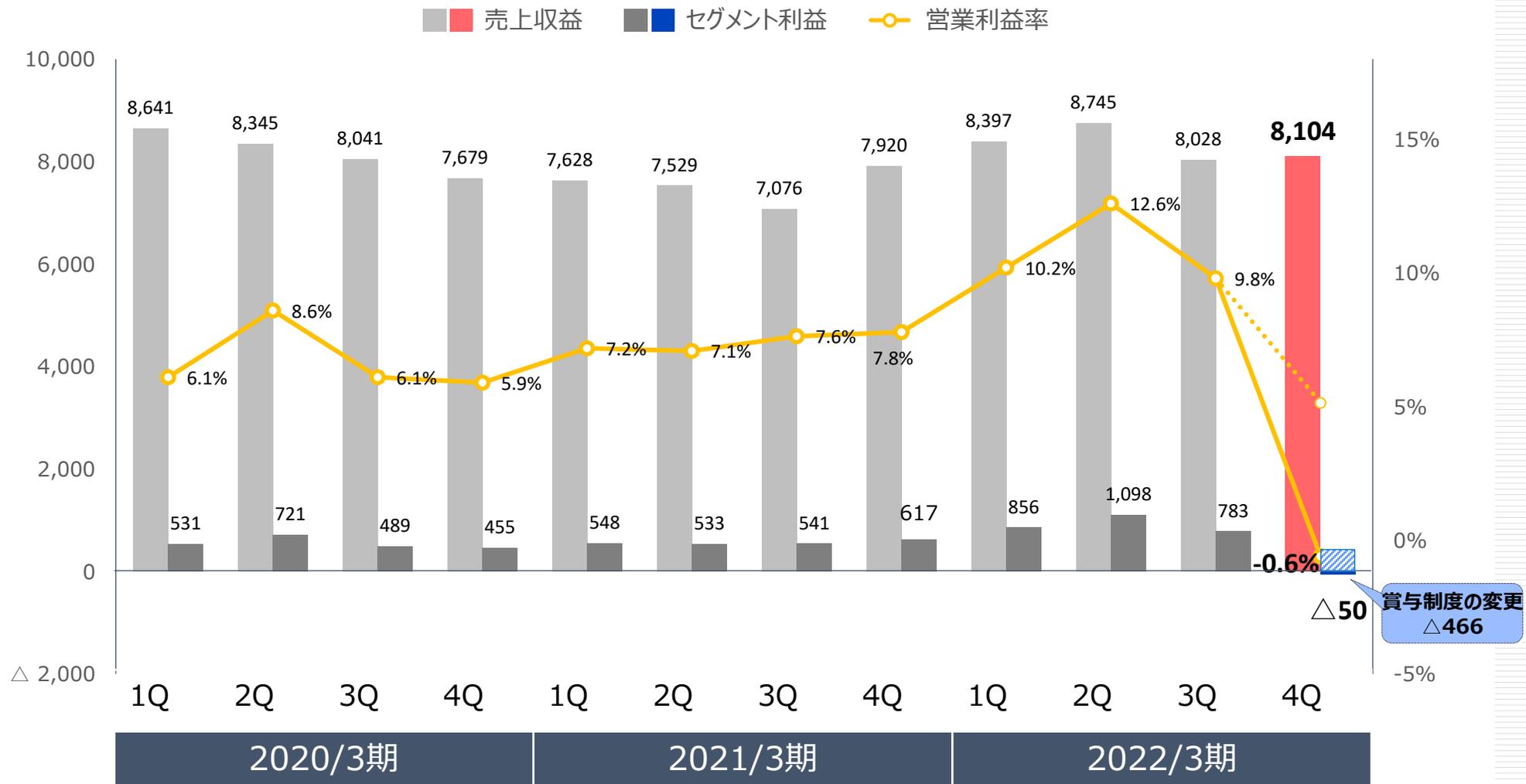
(単位：億円)



コア営業利益 (+20.1%)	■ 販売の増加により、利益が増加。
--------------------	-------------------

産業資材事業 四半期推移

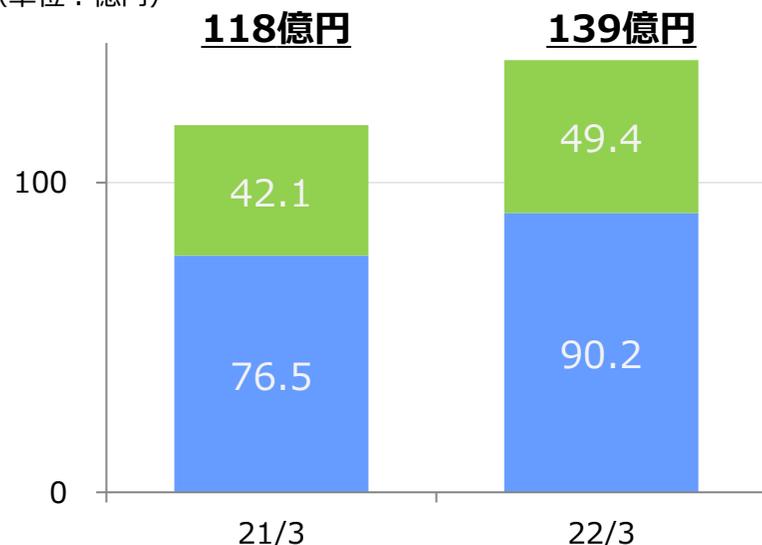
(単位：百万円)



高機能エラストマー製品事業 概要

事業別売上収益

(単位：億円)



- 新型コロナウイルス感染症の影響により一時停滞していた需要が回復したこともあり、建築資材用フィルムの販売が増加。
- 医療用、工業資材用および装飾表示用フィルムなどの販売も増加。

- 主要顧客の生産回復により、精密ベルト、高機能ローラおよびブレードなどの販売が増加。

コア営業利益

(単位：億円)



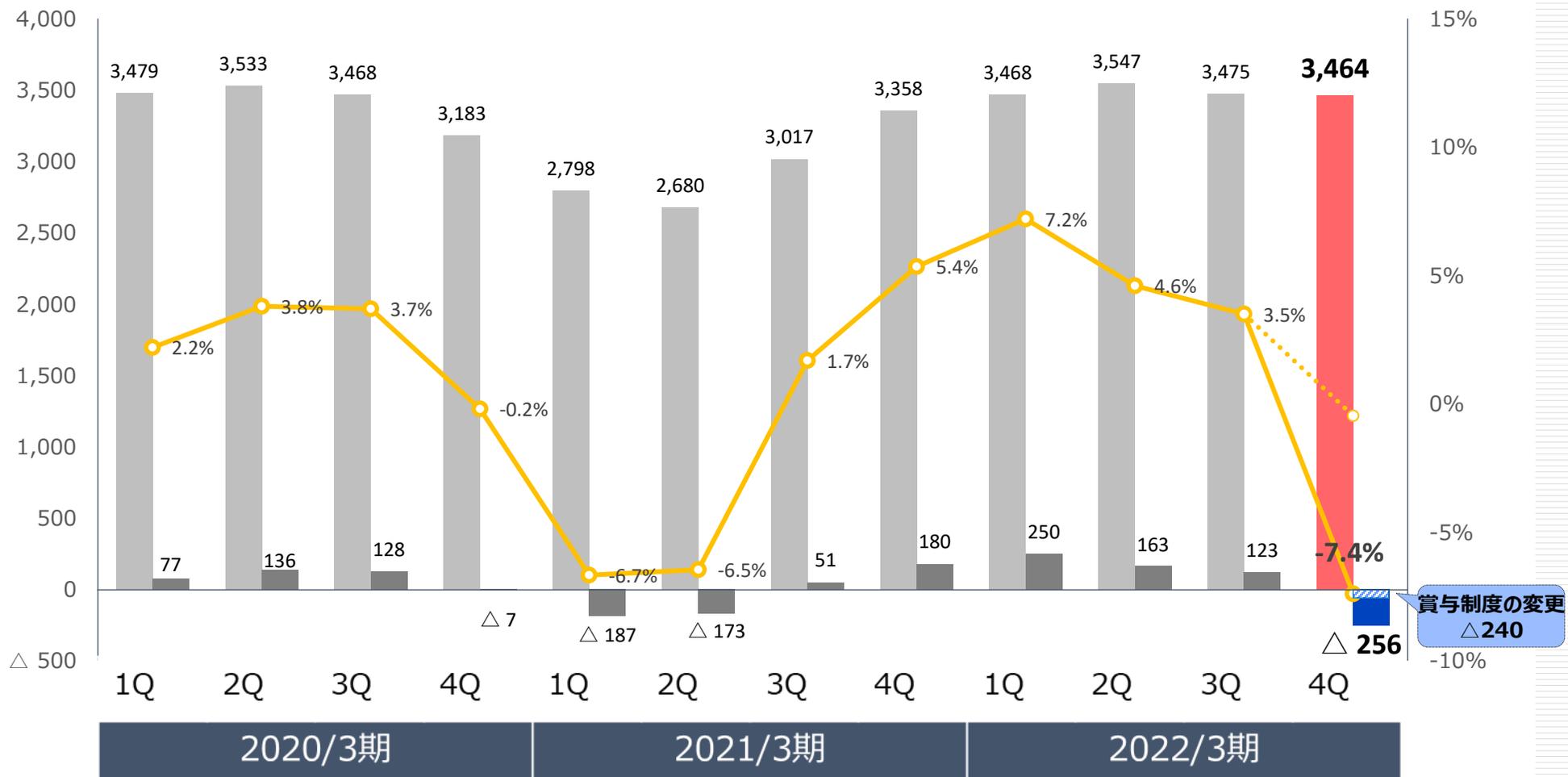
- 販売の増加により、利益が増加。

高機能エラストマー製品事業 四半期推移



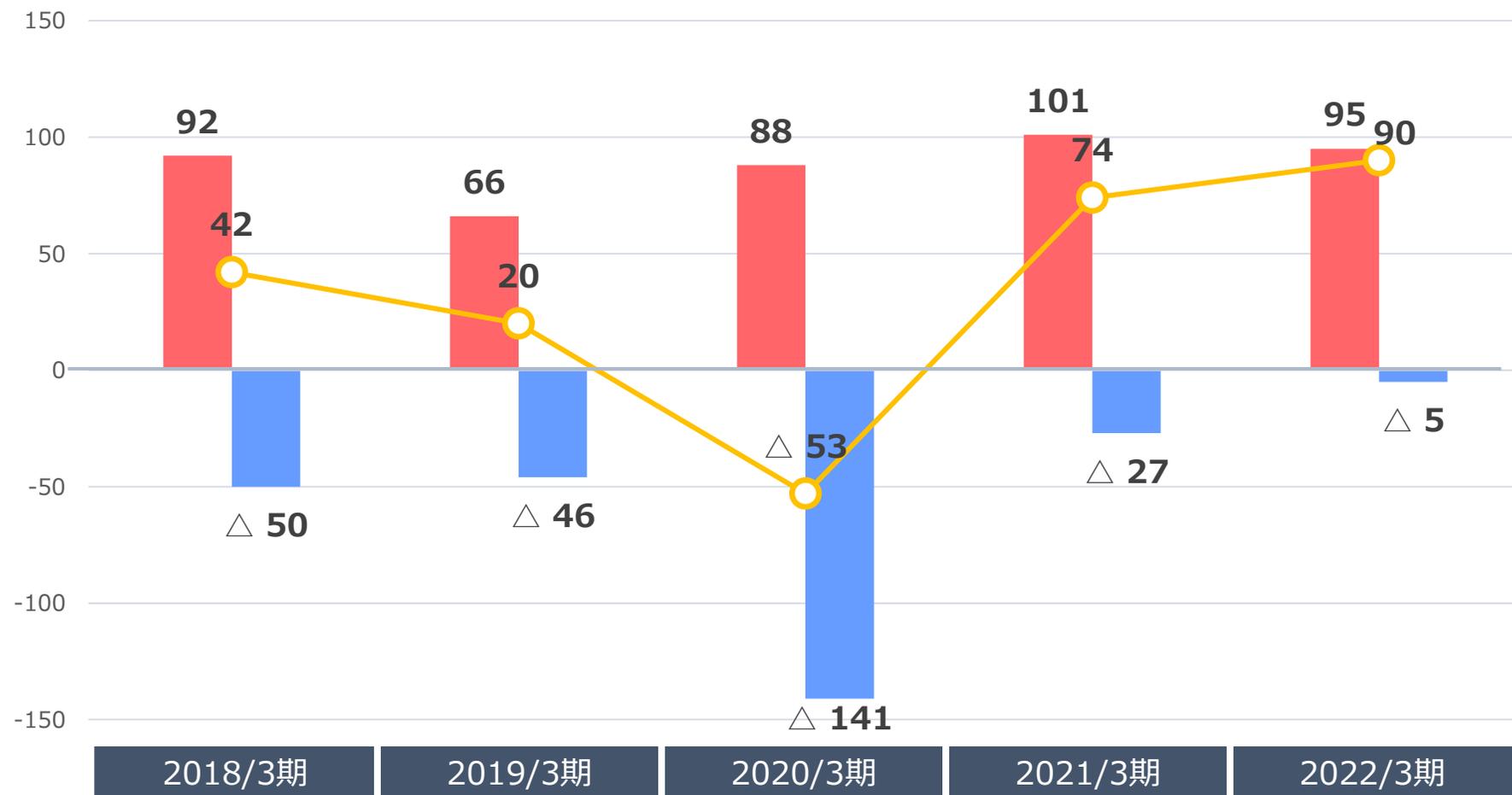
(単位：百万円)

売上収益 セグメント利益 営業利益率



キャッシュ・フロー（CF）の推移

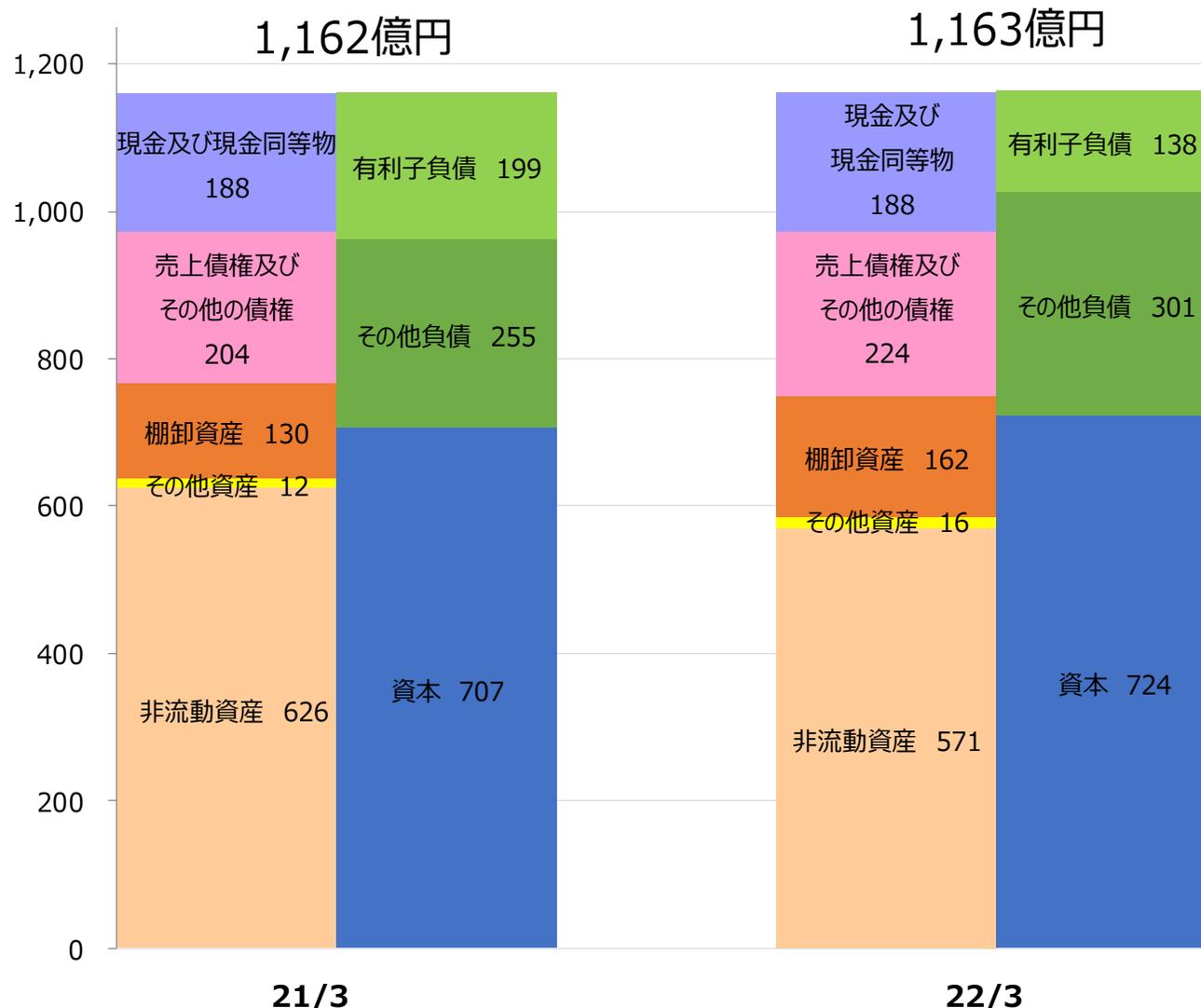
(単位：億円) ■ 営業活動 ■ 投資活動 ● フリーCF



※ 1 20/3期の投資活動によるCFには、株式会社Aimedica MMTの取得による支出（92億円）が含まれております。

連結財政状態計算書

(単位：億円)



資産

- 増収に伴う売上債権および棚卸資産の増加 (+52億円)
- 政策保有株式を売却したこと等に伴う非流動資産の減少 (△54億円)

負債

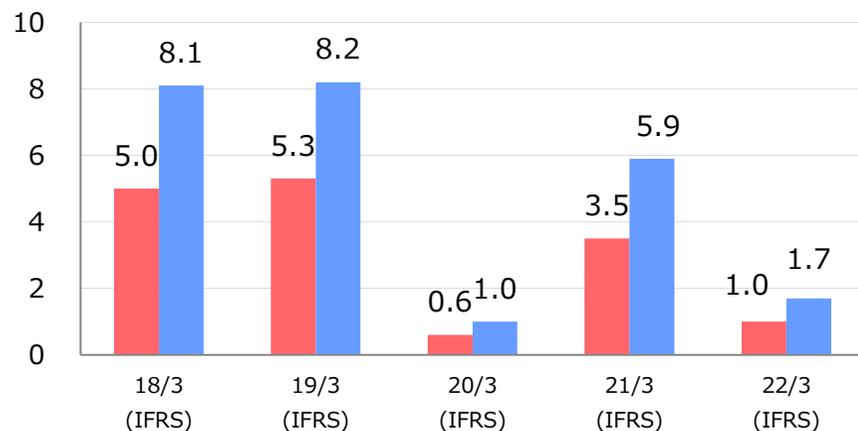
- 有利子負債の削減 (△61億円)
- 賞与制度の変更に伴う未払賞与の計上等 (+13億円)

資本

- 利益剰余金の増加 (+6億円)
- 円安等に伴うその他の資本の構成要素の増加 (+19億円)
- 自己株式の取得による減少 (△9億円)

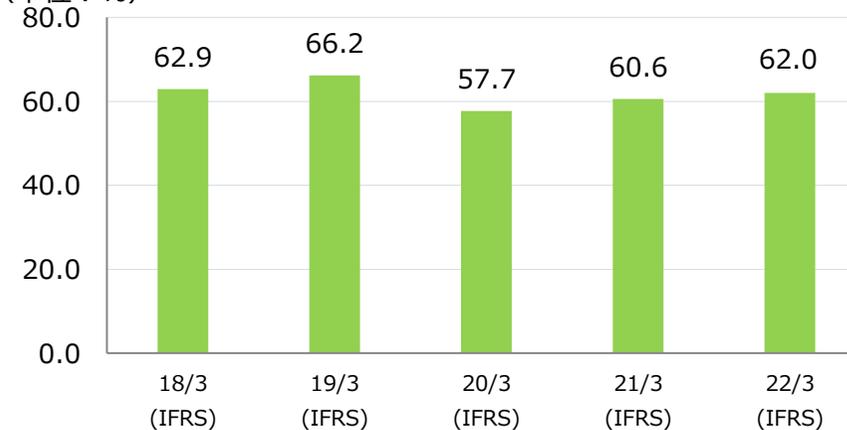
ROA / ROE

(単位：%) ROA ROE



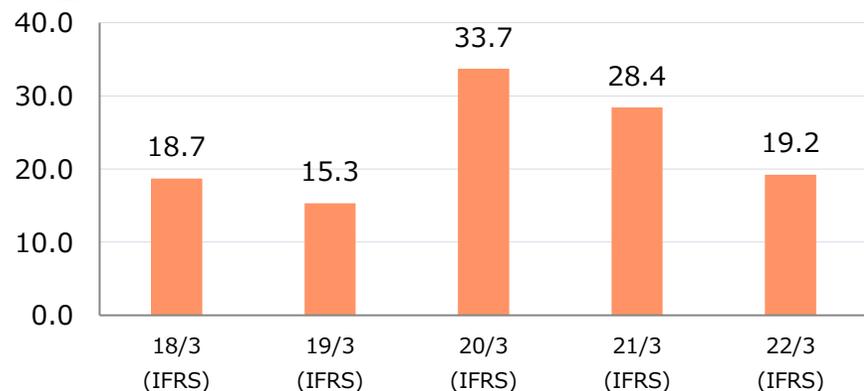
親会社所有者帰属持分比率（自己資本比率）

(単位：%)



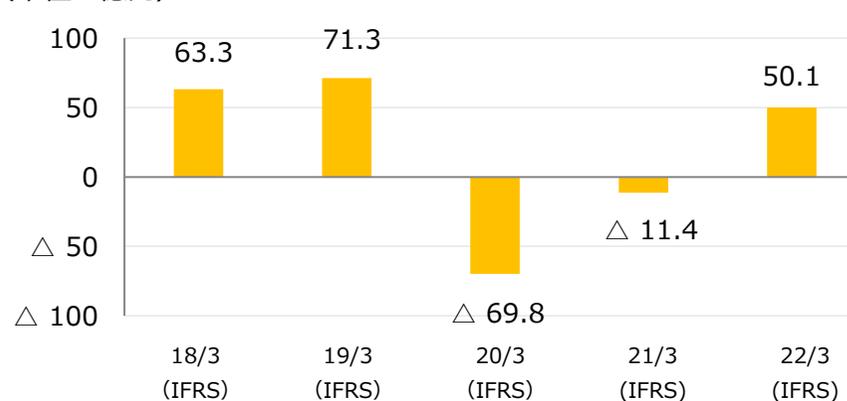
D/Eレシオ

(単位：%)



ネットキャッシュ／純有利子負債

(単位：億円)



主なトピックス

2021年	4月	● 和歌山工場「災害ボランティアセンター設置場所に関する協定」等を締結		
	5月	● 樹脂製レーシングエンドレス加工「ミスター-Proジッパー®」を販売開始		
		● 耳ほつれ防止加工「ミスターバンシール®」を販売開始		
	6月	● 「C-STRETCH®」を活用した呼吸器領域初の医療機「ResMo®」を販売開始		
	7月	● 「紙幣/カード搬送用歯付ベルト UVH仕様」を販売開始		
	9月	● 高負荷対応歯付ベルト「Ceptor®-X Plus」を販売開始		
	10月	● 嚔下運動モニタ「B4S™」を販売開始		
2022年	2月	● 食品衛生法ポジティブリスト適合証明書 ダウンロードサイトを開設		
	3月	● 伸縮性ひずみセンサ計測システム「C-STRETCH MEASURE」の販売受付開始 ● ESG総合型指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定		

※「C-STRETCH」は、バンドー化学株式会社の登録商標です。

Ⅱ. 2023年3月期 業績予想

2023年3月期 業績予想



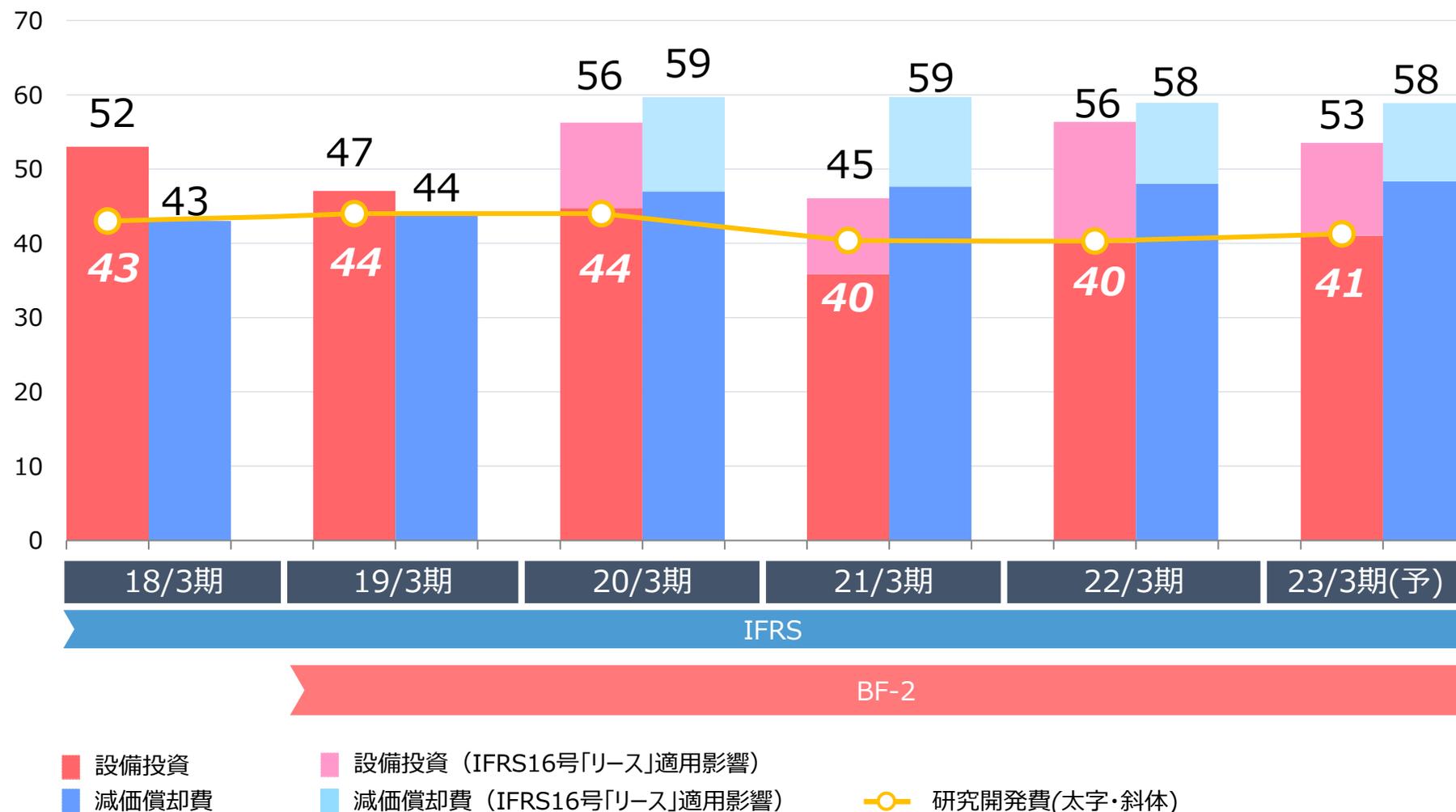
(単位：百万円、%)

	2022/3 実績	2023/3			
		予想	前期比	中計目標値	業績予想との差異
売上収益	93,744	95,000	+1,255	120,000	△25,000
コア営業利益	5,880	7,000	+1,119	12,000	△5,000
営業利益	2,665	7,500	+4,834		
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,211	5,000	+3,788		
為替レート	USD	113.05	120.00		
	THB	3.45	3.60		
	人民元	17.65	18.80		

- 景気回復が続いており、賞与制度の変更などの一時的な損失がなくなることもあって、増収増益を見込む
- 足元、原材料価格が急騰しており、サプライチェーンの混乱や地政学的リスクの顕在化など、下振れリスクは依然残る

設備投資額、減価償却費および研究開発費の推移

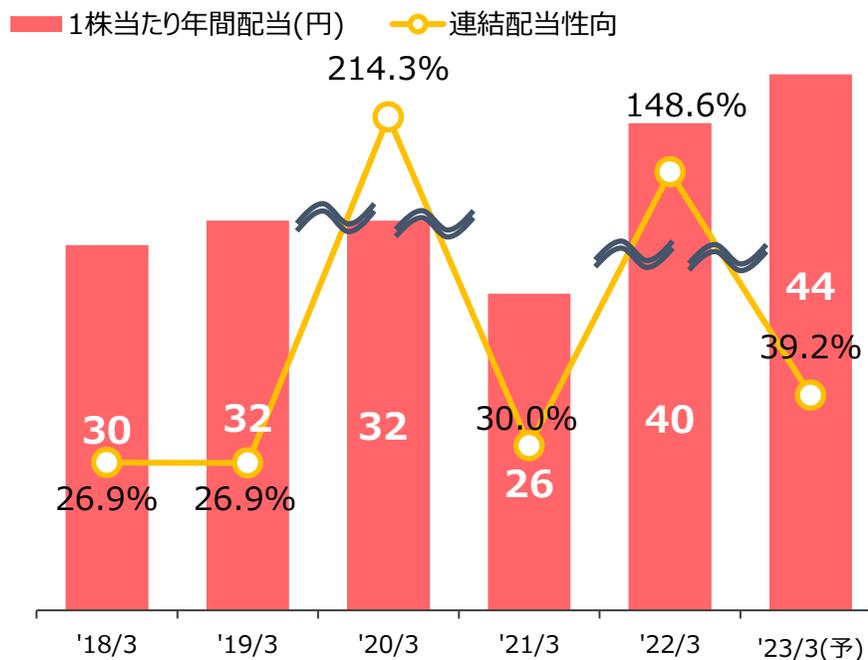
(単位：億円)



基本方針

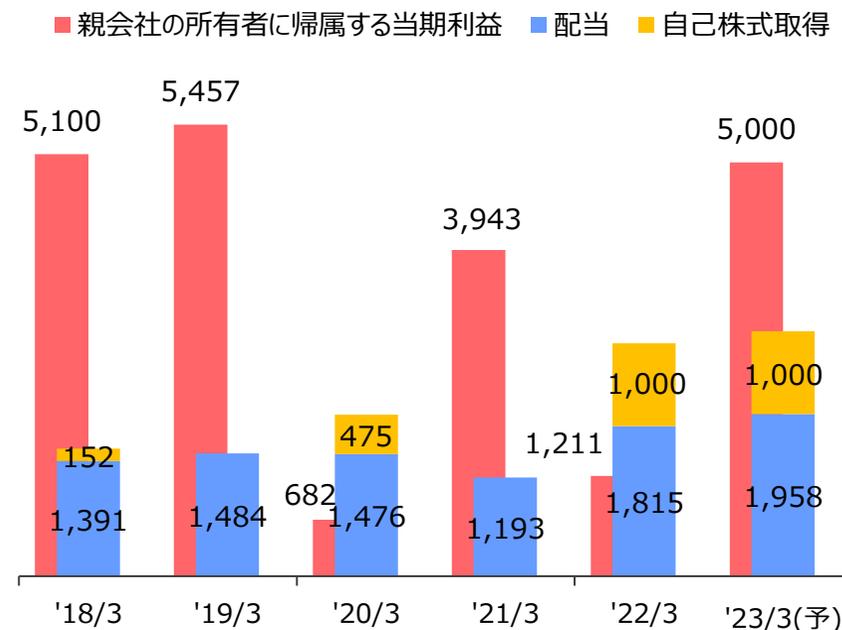
収益および財務状況に配慮しつつ、**当面の間、1株当たり年間配当金額26円を下限として、連結配当性向40%を目処に安定した利益配当を行うことを目標とし、利益還元の充実に努める。**

1株当たり年間配当・連結配当性向の推移



株主総還元の推移

(単位：百万円)



ESG：カーボンニュートラル実現を目指した目標を設定

- ◆ 2050年までのバンドーグループCO₂排出量実質ゼロを目指す
- ◆ 2030年までに、燃料使用および電力に由来するCO₂排出量を2013年度比38%削減する目標※を設定



2020年度実績：
CO₂排出量 **30%削減**



重油からLNGを用いた
コージェネレーションシステムに
切り替え



モーダルシフトによる
物流CO₂排出量削減

2030年度目標：
CO₂排出量 **38%削減**※
(2013年度比)

【具体的な取り組み】

- ・新製法への転換
- ・太陽光発電の積極的な導入
- ・変圧器等のトップランナー機器への更新
- ・工場のさらなる暑熱対策

※バンドー化学株式会社単体、
スコープ1、2

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。